

学校だより

夢に近づけ 今、鴨居がいいかも！

横浜市立鴨居小学校

電話 045(931)2062

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamoi/>

感謝、誇り、決意

校長 大森 英司

11月1日は、感動的な日となった。保護者を招いての児童による創立記念式、140周年音楽集会、そして、来賓を招いての140周年記念式典、祝賀会、いずれも素晴らしいものだった。

主役は、もちろん子どもたちだ。140周年音楽集会を前に、私は、『『ありがとう。』『大好き。』『がんばるぞ。』』という気持ちを表現してください。』と、話した。そして、どの学年もそんな気持ちを十分に感じさせる発表で、感動した。練習の時から心をこめて準備したのだろう。他の教職員も保護者も、そして、発表している児童も見ている児童も胸を打たれたに違いない。ある5年生は、こんなことを書いたそうだ。

「ぼくは今日の発表が一番うまくいったと思います。でも、ぼくたちは、もっと上達できると思いました。今はこれが精いっぱいだけど、6年生になったらこれ以上はないというぐらいの発表にしていきたいです。そして、今の6年生から学んでもっといいものにしていきたいです。」精一杯努力し、こう思える5年生が素晴らしい。

午後の記念式典、祝賀会の主役も児童だった。午前中の音楽集会でのショートバージョンでの鴨居囃子も良かったが、午後の鴨居囃子は練習のすべてをぶつけることができた。緊張を吹き飛ばすように、太鼓は力強かった。獅子舞は、本当に悪魔を払ってくれるかのようなだった。お面をつけての舞も、よくあそまでできるようになったと感心した。そして、お面にも表情があることを発見した。名人の作ったお面ということもあるだろうが、踊りが巧みなので、お面にも表情が現れ、体とお面が一体となった。

翌日、鴨居小学校を会場に行われた福祉まつりに児童も出させていただいた。オープニングセレモニーでは、5、6年生が合同でソーラン節を踊り、エンディングセレモニーでは、6年生が「レッツダンス ウィズ 横浜」を踊り、どちらも大きな拍手を浴びた。「レッツダンス ウィズ 横浜」は、アンコールの声も上がり、その場にいた下級生も巻き込んで、一緒に踊った。実に楽しそうだった。一部の児童は鴨居芸能保存会のお囃子にも入れてもらった。この日の児童の様子を見ていて、前日の経験でとても自信がついたことと、地域により溶け込んだことを感じた。また、地域の方の目も、より一層温かくなったような気がした。

140周年記念のお祝いは、とても価値あるものになったと思う。子どもたちが浮かれるだけならば、お祝いなど何の意味もないが、地に足をつけて充実した活動にしようと思っただけだった。鴨居小の140年の歴史に関わったすべての人と物に感謝し、鴨居小の児童であることに誇りを持ち、これからの鴨居小をさらに発展させようと決意する良い機会となった。

